筑波山麓地域情報紙
第11号
すそみろく
筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました
第11号（平成21年4月1日）
発行・すそみろく編集委員会　TEL029-866-1122（田井の里地域づくり愛好会・森田）
TEL029-863-5151（NPO法人つくば環境フォーラム・田中）

森よ、生き返れ！　すそみの森の木をベンチにするプロジェクト

去る2月21日、すそみでベンチ作りが行われました。11月の間伐から始まり、乾燥させる「葉枯らし」を経て出来上がったベンチは、全線開通した白滝古道に置かれました。また、植樹祭が各地で行われるなど、すそみの環境整備が着々と進んでいます。

今回は、間伐材を利用して、木のベンチを作りましょうという企画でありました。現在利用価値が減って手入れ不足の雑木林や植林地を、なんとか良い状態にしようではないかということから、このプロジェクトは始まりました。森をきれいにすること、山を管理していくこと、水源を守ることは一連の流れです。筑波山は霞ヶ浦水源のひとつです。筑波山の環境を見守っていくことは、この地域全体の生活とは全く無関係ではありません。

間伐した場所は、白滝林道の入口に広がる杉林です。その場所は、陽が充分入らないため樹木が伸びきらず、うっそうとしていました。間伐で、日が差し込み風が抜けるようになりました。つくば環境フォーラムの呼びかけに、プロの大工さん、地元の人、すそみろく編集部をはじめ多くの人が集まって作業開始となりました。材が足りないと言うことで、筆者も木の皮むきなどを手伝いました。腐った木は使わず、良質の材を選び、ナタや鎌を使って皮をむきますが、ちょっとした細い丸太でも30分ぐらいかかりました。ベンチ作りは、つくば技能士組合に所属するプロの大工さんが中心に行います。さすがに、プロの技術とプロの道具、かなり早いスピードで木のベンチが出来上がっていきます。木の形もいろいろで、一つとして同じものはありません。座って見ると、アナログの勝利というか、すわり心地も抜群で、ツボにはまった気持ち良さ。12脚も出来ました。

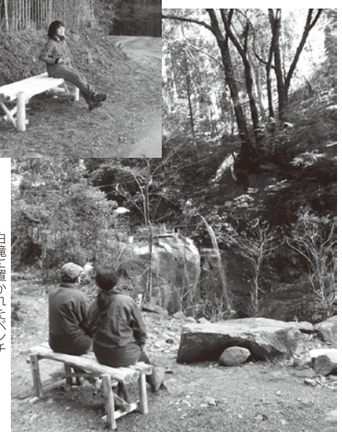
みんなで楽しくベンチづくり

出来上がったベンチは開通した白滝古道におかれました。きっと、訪れた人は「おっ、こんなところに木のベンチが！」と言って腰を下ろすに違いありません。このベンチは2、3年ぐらいしかもたないそうです。壊れると、また間伐し、ベンチ作りをという循環によって、森が生き返ってくるという計画です。お昼は、地元の有志が炊き出しに協力。野外の食事は大変おいしかったです。この季節の郷土料理「すみつかれ」、はじめて食べたなんて人もいました。

山の作業は少々辛くても、楽しいものがあります。自然を守ることもレジャーの一つだと考えれば、一石二鳥です。今後、こんな感じで自然と関われたら、筑波山がより美しく蘇ってくるのではないでしょうか。そんな兆しが見えてきたことはとてもうれしいことです。

榎田智司（六所地区）

ウォーキングコース（細草）のベンチ


白滝に置かれたベンチ

開店が待ち遠しい！　オーガニックカフェ

今、神郡のつくば道沿いに「NPO法人　自然生クラブ」が運営する「オーガニックカフェ・菓子工房・ソレイユ」の開店準備がすすんでいる。元農協の建物をリニューアルし、新たな地域のコミュニティーの場として、一階がカフェ、二階は多目的スペースで活動を開始する。

「自然生クラブ」で有機栽培した米・小麦・ひまわり油・野菜などを利用して焼き菓子や料理を作る。施設長・柳瀬敬氏は「ソレイユは人々とのコミュニケーションの場であり、皆の場所として、地域の人々に活用してほしい」と望んでいる。「こだわりの品の提供」を基本にして、オープンでオーガニックな人と人とのつながりを築いて行きたいとの事、柳瀬氏の目指す所は高くて広い。地域の人々の意見も大いに活かしていきたいそうだ。

来年は「自然生クラブ」活動開始20周年の節目の年を迎えるという。知的ハンディキャップのある人達と共に、農業を中心として太鼓・ダンス・絵画等を通じて、人間の内部に隠されている能力の発見と表現を求めて止まない。「ソレイユ」は、ゆったりと大自然に抱かれながら幸せを感じる、そんな時間を過ごす事が出来る場所になるであろう。

石井博子（神郡地区）

田井ミュージアムで柳瀬さんにお話を伺いました

開店に向けて着々と準備中です

すそみの里（田井）に足湯が登場　その名は「筑麓足湯楽房（つくろくあしゆらくぼう）」

筑波山のふもと、眺めのいい一角に、昨年、足湯が楽しめる場所が誕生しました。大きな窓で囲まれた5坪ほどの部屋の真ん中に、縦およそ2メートル、横1メートル、深さ50センチほどの足湯が湯気を放っています。全体がヒノキの板で仕上げられているため、木の良い香りに包まれています。お湯は、不要になった材木を薪にしてボイラーで沸かし、木をくり抜いた樋で流し入れています。足元には、コロコロ回る健康器具のような木のおもちゃがついていて、作った方の遊び心を見つけた気がします。

この足湯を考えたのは、本誌2号で空師として紹介した杉田房雄さん、好奇心いっぱいの75歳です。「山歩きの帰りにでも湯に入っていってくれたらいいねえ」と杉田さん。時には、心がゆるりととけてしまいそうな足湯につかりながら、太古から変わらぬ夕陽を眺めたりするのもいいものです。

「筑麓足湯楽房」のご利用は、土、日のみ。農作業で忙しい時期は不定期のため事前に杉田さんまで確認して下さい。

（029-866-1684）無料

杉田さんの農産物も買う事が出来ます。

上野節子（小沢地区）

ゆったりした時間がながれていきます

編集を終えて

筑波山麓では実に様々なことが繰り広げられているなと感じます。今号の記事は、どれも「エコ」に通じるものばかり。山や森や使われなくなる建物を蘇らせ、地域にある様々なものを活用し、人と人がつながり、「すそみ」が元気になったらいいですね。「すそみ」の応援団がこれからもっと増えるよう願います。

すそみサポーター　敬称略

つくば市神郡	飯田猷子
つくば市臼井	菊地つよい
つくば市臼井	鮭川隆雄
つくば市小沢	上野節子
つくば市漆所	小澤藍
つくば市神郡	普門寺
つくば市田中	うめた印刷　029-850-7155
つくば市天久保	結エディット

他一名の方から協賛をいただいています。

私たちが応援してます！

※協賛会員「すそみサポーター」募集中！　一口3000円

デザイン・小沢陽子（漆所地区）

※「すそみろく」は全労済地域貢献助成事業『都市と農村を結ぶ「すそみの森」づくり』の一環として一部助成をいただいています。